

「平成 30 年 7 月西日本豪雨」  
まび記念病院の被災と復旧作業

医療法人 和陽会 まび記念病院  
人工透析部 高瀬正章

平成 30 年 7 月豪雨は、西日本の各所で大きな被害をもたらしました。

過去災害が比較的少なかった「晴れの国岡山」でも多くの死者を出す惨事となりました。当院は、岡山県では最も大きな被害を受けた倉敷市真備町で地域の基幹病院として診療しておりましたが、豪雨によって 3 メートル以上の浸水被害を受けて 1 階部分は完全に水没し、病院機能は失われました。真備町の約 1/4 が水没し、病院も孤立してしまった 7 月 7 日、病院には自衛隊などによって救出された近隣住民の方々約 200 名が一時的に避難してこられ、入院患者や職員を含めると総勢 300 余名の人々が不安な一夜を過ごしました。翌日には全員が救助されて安堵しましたが、その日が職員にとって病院復興へ向けた復旧作業の始まりの日となりました。過去の真備町での水害の情報を基に設置されていた電源設備、水道設備などは水没。2 階にあった透析関連装置は、水没こそ免れましたが、透析工程で停止したままどうすることもできない状態でした。

当院で透析治療を行っていた 102 名の患者様は、岡山県医師会透析医部会のご尽力もあり全員が速やかに転院できましたが、受け入れて頂いた各ご施設には大きな負担を強いることになりました。当院の透析スタッフとして少しでもお役に立てればと思い、受け入れ先のご施設に応援にも伺いました。

被災から 2 週間が経過して透析装置の復旧作業ができる最小限の環境ができ、そこから少しずつ設備を調整して 2 ヶ月余りを要して、ようやく透析治療の再開となりました。

被災時の状況と復旧作業のご報告です。